

鳥類臨床研究会会報 原稿執筆要領

1. 投稿区分

1.1 投稿区分の選択

投稿区分は「論文」と「雑録」に大きく分かれ、掲載時はそれぞれ区域をわけて掲載される（前者はカラー、後者は白黒で印刷）。

① 論文（総説、原著、短報、症例検討、記録）

掲載には、審査委員による審査と編集委員による校閲が必要となる。論文投稿者は投稿の内容から適合する区分を選び、下記のガイドラインに従って執筆する。CII会員申請に必要なポイントは総説5点、原著4点、短報3点、症例検討2点、記録2点が付与される。

② 雑録（意見、紹介、書評、資料、見聞、情報など）

掲載には、編集委員による校閲が必要となる。原則自由投稿だが、内容は当会の趣旨に合うものとする。編集委員による修正指示が行われることがあり、本誌に適さないと判断された場合にはおよび掲載を見送る場合がある。

雑録のポイントは一律1点とする。

1.2 投稿区分の概要

総説

鳥類臨床に関するある特定の分野に関し、投稿者の研究成果を幾つか含め、主要な文献を集め、体系的に整理、論述したもの。原則として編集委員会からの依頼投稿とする。

表題：和文および英文

要約：和文（500字以内）および英文

キーワード：原則として6語以内

刷上がりページ数：A4の用紙で20枚（28800字）以内

参考文献：30編程度

原著

新知見を含む価値有る事実が客観的に検証され、結論付けられている報告。

表題：和文および英文

要約：和文（500字以内）原則として英文の必要あり

キーワード：原則として6語以内

刷上がりページ数：原則としてA4用紙で15枚（21600字）以内

参考文献：10編程度

短報

新知見を含む価値ある事実が客観的に検証されているが、知見が部分的、あるいは十分な結論に至っていない報告（新規性を重視した投稿区分）。複数の知見を集め、検証を行った研究報告が主に該当する。

表題：和文および英文

要約：和文（500字以内）原則として英文の必要なし

キーワード：原則として6語以内

刷上がりページ数：A4用紙で6枚（8640字）以内

参考文献：10編程度

症例検討

新知見は少ないが、周知されていない事実、あるいは臨床的に啓蒙すべき事実が客観的に検証されている報告（臨床性を重視した投稿区分）。一例報告など、症例報告が主に該当する。

表題：和文および英文

要約：和文（500字以内）原則として英文の必要なし

キーワード：原則として6語以内

刷上がりページ数：A4用紙で6枚（8640字）以内

参考文献：10編程度

記録

新知見を含む価値ある報告だが、検証や裏づけが十分にされていない、あるいは結論に至っていない速報性を重視した報告。考察や参考文献が必要のない簡易的な書式形態。

表題：和文のみ

要約：必要なし

キーワード：必要なし

刷上がりページ数：A4 用紙で原則 1 枚（1440 字）

参考文献：必要なし

雑録

表題：和文のみ

論文形式を問わない。

刷上がりページ数：A4 用紙で 6 枚（8640 字）以内

2. 原稿の体裁

投稿者は以下の執筆要領に従い原稿の体裁を整えた上で投稿を行う。

2.1 原稿作成の媒体

原稿の執筆は原則としてワープロソフトで行うものとし、ワープロソフトは MS-WORD の使用を推奨する。

2.2 ページ設定

文字数：指定なし

行数：36 行

行送り：18pt

余白：上 35mm 下 30mm 左 30mm 右 30mm

行番号をつける

2.3 フォント設定

日本語フォント：MS 明朝

英数字用のフォント：Century

サイズ：10.5

本文中では太字、アンダーライン等の文字飾りはむやみに使わないこと。

2.4 原稿作成

各区分の作成要領を参照し記載する。間違いが多い場合はその時点で掲載不可とするため十分注意を払うこと。

原稿用紙：A4 サイズ

複数人の場合
筆頭著者¹⁾†, 第二著者²⁾, 第三著者³⁾
1)所属, 2)所属, 3)所属
†連絡責任者：氏名(所属)
所属先住所
Email

行番号を
付ける

※連絡先を公表したくない場合は
†連絡先：編集事務局 とする

余白 上 35 mm

原稿タイトル

氏名
所属
所属先住所
Email

1
2
3
4
5
6

要約(記録、雑録は不要)

キーワード(記録、雑録は不要)

本文 MS 明朝(10.5pt)

はじめに
材料および方法
結果
考察

謝辞

参考文献

英文タイトル(記録、雑録は不要)

英語筆頭著者¹⁾†, 英語第二著者²⁾

1)英語所属, 2)英語所属,

†Corresponding Author: 英語氏名(所属先)

Email

34
35
36

SUMMARY(総説と原著のみ)

Keywords(総説と原著のみ)

論文

総説 A4用紙で20枚以内
原著 A4用紙で15枚以内
短報 A4用紙で6枚以内
症例検討 A4用紙で6枚以内
記録 A4用紙で原則1枚
雑録 A4用紙で6枚以内

余白 横 30 mm

余白 横 30 mm

余白 下 30 mm

行数 36 行
行送り 18pt

2.5 図表の決まり

図表は原稿末尾に掲載され、掲載される大きさは編集の都合により縮小される場合があることに留意する。

図表は本文に現れる順に、図 1、2、3・・・あるいは表 1、2、3 と表記する。

表は Excel で作成するものとし、表の罫線は横軸のみとする。

図は JPEG 形式で保存し、100KB 以上、3M 以内のサイズのものとする。

原則として、刷り上りページ数に含める。

2.6 単位について

単位と略号は国際単位に準拠する。

2.7 固有名称

(1) 動植物の名称

本文中の動植物の和名はカタカナとし、初出（題名、要約、本文、英語題名の各初出）においては学名を併記する。

属、種、亜種の学名はイタリック体とし、学名は本文中の初出においては完全表記する。

(2) 薬剤の名称

使用した薬剤は、製品名ではなく一般名で記載し、論文の内容に大きく関わる薬剤に関してのみ薬用量、投与方法も記載する。

例1) エンロフロキサシン (10 mg/kg po, bid for 7 days)

例2) クラリスロマイシン (800 mg/L 飲水投与)

(3) 機材・機器の記載について

使用した主な材料・機器については、初出に限り、製品名、メーカー名、都市名（米国の場合は州記号）、国の順で記載する。

例1) VetScan VS2 (Abaxis, CA, USA)

例2) 生化学自動分析装置 (VetScan VS2, Abaxis, CA, USA)

2.8 本文中の文献の引用

他の論文を引用した場合は、文中引用する必要があり、（著者の苗字、刊行年）と表記する。著者が2名以下の場合は全員の名前を書く。著者が3名以上の場合は筆頭著者名のみを書き、第2著者以降の著者名は et al.（和文表記文献の場合は「他」）と省略する。

例1) オカメインコ3例において報告がある（田中，2018）。

例2) オカメインコ 3 例 (田中, 2018) セキセイインコ 2 例 (Harrison & Dann, 2020) コザクラインコ 4 例 (Carpenter et al., 2021) において報告がある。

例3) 田中ら (2018) は、オカメインコ 3 例で報告しており、他にセキセイインコ 2 例 (Harrison & Dann, 2020)、コザクラインコ 4 例 (Carpenter et al., 2021) において報告がある。

例4) オカメインコ 3 例、セキセイインコ 2 例、コザクラインコ 4 例で報告がある (田中他, 2018 ; Harrison & Dann, 2020 ; Carpenter et al., 2021) 。

2.9 参考文献リストの記載方法について

文献番号をつけない。文献の順番は筆頭著者の名字のアルファベット順、同じ名前の筆頭著者が複数人いる場合は出版 (発行) 年順とする。

参考文献の表記は APA 方式とする。Google scholar で文献を検索し「引用」をクリックすると中段に APA 方式の文献表記が出てくる。これをコピー & ペーストすると良い。

Google scholar に無い文献については、以下を参照し記載する。

<雑誌論文>

[単著論文]第一著者名. (出版年). タイトル. 雑誌名, 巻(号), 掲載ページ.

Doestof, A. (2010). Avian oncology. *Avian medicine in Japan*, 15(1), 68–81.
田中裕子. (2015). スミレコンゴウインコの鳥クラミジア症の一例. *鳥の臨床*, 6(2), 200–220.

*海外の著者名は、ファミリーネーム、ファーストネームイニシャル、ミドルネームイニシャル. と記載する。

*雑誌名、巻はイタリック。

[共著論文] 第一著者名, 第二著者, 第三著者, & 第四著者名. (出版年).
タイトル. 雑誌名, 巻(号), 掲載ページ.

Cheng, P., Wong, T. R., & McDonald, O. (2017). Avian parasites in Japan. *Journal of Avian Parasitology*, 25(3), 416–432.
田中裕子, 加藤麻衣子, 鈴木崇, 鈴木美智子, 榎本裕子, 玖村このみ, 秋田小次郎, 猪俣きりこ, 宇都宮久理子, 大蔵恵子, 柿谷百合子, 黒田金次郎, 小宮銀二, 地村幸太, 津野実花子, 勅使河原元子, 戸村一郎, 羽村太郎, 日野雪路, ... 山本太郎. (2018). ハナガサインコのトキソプラズマ症の一例. *鳥の臨床*, 18(2), 350–360.

*本文中での引用の際は、第二著者以降を et al で省略するが、引用文献リストでは全員分 (20 名まで) の名前を表記する。21 名以上の著者がいる場合は、19 番目の著者と最後の著者の間を省略記号 (...) で表記する。

<書籍>

[単著本] 著者名. (出版年). タイトル. 出版社名.

Dann, T. K. (2018). *Avian heart diseases*. Harsha Publication.

佐藤知子. (2018). *肝臓*. 行平出版.

[共著本] 第一著者名, & 第二著者名. (出版年). タイトル (第〇版/ed.).

出版社名.

Ritchie, T. O., & Larsen, J. (2007). *Avian kidney and liver function*. Avian View Publication.

田中亜希子, & 佐藤大輔. (2018). *腎臓* (2nd ed.). 金谷出版.

[編著書] 編者名 (Ed/Eds.). (出版年). タイトル (第〇版/ed.). □出版社

名.

Flower, R., & Kato, T. (Eds.). (2019). *Avian Influenza in Japan: Themes, issues and challenges*. Routledge.

*編著者が二人以上の場合は (Eds.) 一人の場合は (Ed.)

2023年 3月 9日